

ブラウン園芸部～花だより～

ブラウンクラブ園芸部の方々が丹精込めて育ててくださっているハマロードのお花たち。
その折々のようすをご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。

秋の巻

かわいいポーチュラカやペチュニアなどの夏の花にかわって、パンジー、ビオラなどが秋のハマロードをかれんに彩ってくれています。

同時に、園芸部の方々が種を蒔いた春のお花たちも青い芽をのぞかせており、開花が楽しい秋の花壇でもあります。



晩夏に咲いていた葉ゲイトウ。秋の訪れを感じさせてくれたお花です。



秋を代表する花、コスモス。漢字で「秋桜」、素敵な表記ですよ。

なんと、ブラウンに曼珠沙華が咲いていました。別名、彼岸花の名のとおり、お彼岸の頃のお花。白い曼珠沙華なんて、初めて。優雅な感じがします。





夏から中秋が開花期のペンタス。園芸部の花壇で、初めて知ったお花。そのかわいさだけでなく、名札に「エジプトの星」とあるのも、ずっと気になっていたお花。

語源は、ギリシャ語の”pente”（ペンテ＝「5」）。花弁が5つあることから。

英名”Egyptian star cluster”（エジプシャン スタークラスター）「エジプトの星の群れ」とのこと。たしかに、たくさん集まったお星様のよう。素敵な名です。やっと、疑問が解けました。

これも、園芸部の花壇で初めて出会った「アスクレピアス」。花の名は、ギリシャ神話の医術の神アスクレピアスに由来。どのようなつながりがあるのでしょうか。

和名の唐綿（トウワタ）は、種子に白い綿毛があり、外国から来たことからとかで、江戸時代に観賞用として渡来したもの。

花期は6～10月。実がはじけて、コットンボールになる綿花の花とは、全然違います。

どんな綿毛が見られるのでしょうか。



ガザニアの仲間なのではないでしょうか。名前を見落としてしまいました。

これも花期が長いガザニア。サンライズホワイトという別名、確かにうなづけますね。



アメジストセージ(メキカンブッシュセージ)。咲き出したのは、晩夏。秋が深まるにつれ、紫色が濃くなってきて、名のごとく、まさに「紫水晶」の色。触ってみると、宝石の硬さとは全然違い、ピロードのような感じでした。夏から秋の花。花言葉は「家庭的」「家族愛」。

セージというからには、ハーブの仲間？シソ科サルビア属とのことで、これらの仲間は、殺菌効果が高く、古くから万能薬として使われてきたとか。

これらのお花たちの足元には、来シーズンに向けて種まきされた花の苗が元気に育っています。柵で囲われたり、名札には花言葉が添えられており、園芸部の方々の細やかな気配りがありがたいです。



桜草の花言葉、ハマロードを通る時、園芸部の名札で確かめては？



桜草の向こうに、「冬珊瑚」の実が。気づいたのは、夏。「夏なのに、なぜ、冬珊瑚？」と不思議に思っていました。ナス科で緑→黄→橙と色を変え、夏から冬にいっぱい、実をつけることが名の由来。別名、クリスマス・チェリー。納得できました。写真ではわかりにくいので、ぜひ、実物を花壇で確かめてみてください。



12月初め、なんと桜草の苗もこんなに大きくなり、一輪、お花が咲いていました。「ビックリポン」です。



フリージアもこんなに大きくなっていました。花壇には、他にもクリスマス・ローズや山吹なども植えられていました。

「皇帝ダリア」は1メートルほどに。ダリアだから夏の花とばかり思っていました。皇帝ダリアは寒くなると開花するのだとか。もう少し、待ちましょう。



寒さに強く、花期が長いパンジーやビオラ、ノースポール。寒い冬も元気な姿で、私たちを楽しませてくれるお花たちです。



晩秋から初冬、気づいたら、「サザンカ」がたくさん咲いていました。この花を見ると、「♪さざんか、さざんか、咲いた道、たき火だ、たき火だ、落ち葉吹き…♪」の童謡を思い出します。

もう一つの「さざんか」、…「ふるさと」という名？の生菓子です。



賑やかだった夏の花壇から、すっかり秋のたたずまいに。毎日の花壇のお手入れに併行して、来シーズンに向けた植え替えや種まきの作業に頑張ってくださいましたブラウン園芸部の皆様。毎日のお手入れ、本当にお疲れ様です。そして、いつも、ありがとうございます。